TITLE:
Sexual behaviors and their correlates among young people in Mauritius: a cross-sectional study

AUTHOR(S):
Nishimura, Yumiko

CITATION:
Nishimura, Yumiko. Sexual behaviors and their correlates among young people in Mauritius: a cross-sectional study. 京都大学, 2008, 博士(社会健康医学)

ISSUE DATE:
2008-01-23

URL:
http://hdl.handle.net/2433/137050

RIGHT:
モーリシャスは、マダガスカルから約900km東のインド洋に位置する南部アフリカの島国である。人口約120万人の国である。HIVの流行状況は、示されているが、2002年時点でのHIV/AIDS報告数は374件であり、うち70%が性的接触による感染である。献血者および妊娠のHIV抗体陽性率は、推計される一般集団のHIV感染率は1%未満で、サハラ以南アフリカで最も低水準の国であるが、2000年以降、報告数が毎年増加しており、今後の流行拡大、とりわけ青少年における流行拡大は避けられない。本研究は、同国におけるHIV感染リスクを分析することを目的として同国保健省と共同で実施した。

モーリシャス在住の15〜24歳の未婚男女を対象として、2段階クラスターサンプリングによって確率的に抽出した対象者1200名に対し、構成化質問票を用いた面接調査を実施した。回答率は95%であった。質問票は、対象者の言語・文化的背景を考慮して、focus group discussion、専門家との協議、back translation、予備テストを経て開発した。質問票の信頼性と妥当性は、test-retest法（6回測定）、Chronbachのα、random response法によって確認した。データ収集は研修を受けた50名の調査員と、5名の監修者によって2003年1月に実施した。集められたデータは、統計ソフトSPSS Complex Samples及びSUDAANを用いてクラスター効果を調整した分析を行った。

回答者の平均年齢は男性19.2歳、女性18.6歳、就学中の者は、男性41%、女性49%、就労経験者は男性65%、女性43%で、宗教は、男性ももはもとヒンドゥー55%、イスラム20%、キリスト25%であった。回答者のうち、性経験者は、男性31%、女性10%で、性経験者の中では、男性51%、女性71%が最も最近の性交渉が無防備であったと回答した。多重ロジスティック回帰分析により、男性では、就労経験者で多いことと、飲酒経験、そして女性ともに、キリスト教であることとナイトクラブでの遊興活動が無防備があることに有意な関連（P<0.05、両側）を示した。一方、最も最近の性交渉が無防備であったことに対しては、初交が無防備であったこと、エイズ予防関連NGO活動への認知不足が、有意な関連を示した。

考察 15〜24歳の未婚者において、男性31%、女性10%という性経験率は、他のアフリカ諸国と比べて低く、モーリシャスが低いHIV感染率を維持してきた要因の一つも考えられた。しかし、性経験を有する若者における無防備な性行動の頻度は高く、今後の流行抑制のためには、重点化された対策の必要性が示唆された。本研究では、同国での性行動に関わる社会的要因が初め明らかとなったが、それにより、重点化された対策としては、就学率上昇という長期対策と学校での予防教育以外に、エイズ予防関連NGOの活動や政府によるアウトリーチプログラムの強化による学校外でのプログラムの促進、若者に人気の高い場所やメディアを利用した対策の実施、宗教的指導者を巻き込んだ対策の追求など、3つの
側面からの対策が有効である可能性が示唆された。

以上、本研究より、モーリッシュの若者における性行動の詳細な記述と社会的関連要因の分析を行い、同国の今後の対策に資する情報を示すことができた。

論文審査の結果の要旨

アフリカで例外的に流行を免れてきたモーリッシュでも近年 HIV 感染が急増し始め、若者への流行拡大が懸念されている。本研究は、国家エイズ対策策定に資するために、未婚男女の性行動と、関連する社会要因の分析を目的として同国保健省と共同で実施された。

2段階層化サンプリングにより確率的に抽出した 15-24 才の未婚男女 1200 名に対し、国際標準質問票を基に開発した質問票による面接調査を行い、95%の回収率を得た。質問票には高い信頼性と妥当性が確認され、クラスター性を考慮した統計解析が行われた。

回答者中性経験者は男 31％、女 10％でアフリカ諸国中で低率であることが確認されたが、直近の性行動が無防備だった者の割合は男 51％、女 71％と、リスク行動が高率であることが判明した。多重ロジスティック回帰分析により、性経験に、男性では就労経験と大麻使用、女性では非就学と飲酒経験、そして男女共に、宗教（キリスト教）と夜間の遊興経験が、無防備な性行動には、初交が無防備であったことと NGO が行うエイズ予防活動への暴露の欠如が有意な関連を示した。

本研究は、性行動に関する同国最初の分析疫学的研究であり、就学率向上や学校での予防教育以外に①NGO による予防活動の支援促進、②若者が集まりやすい場所での対策、③宗教者を巻き込んだ対策など、新たな側面からの対策が有効である可能性を示唆した。

したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値のあるものと認める。

なお本学位授与申請者は、平成 19 年 12 月 4 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。